

※このチラシは予定を入れていただくためのお知らせチラシです。
詳しいチラシは後日配布されます。

第62回 埼玉母親大会

第53回 越谷母親大会

* 5月7日(日)

10:00~15:30

* 越谷サンシティ 大ホール

* 記念講演

小森香子 (こもりきょうこ) さん: 詩人
「青い空は青いままで子どもらに伝えたい」

10:00~12:00

《全体会》

記念講演 小森香子さん

13:30~15:30

《分科会》

教育・くらし・平和・

うたごえ・映画・

見学分科会など

小森香子さんプロフィール

詩人・社会運動家／1930年2月1日東京雑司ヶ谷生まれ／東京空襲で関西に避難。その後神戸女学院卒業／詩人会議常任運営委員・運営委員長・日本子どもを守る会理事・東京原水協・日本平和委員会理事などで活動／日本近代文学者の小森陽一氏は息子



《共催》第62回埼玉母親大会実行委員会／第53回越谷市母親大会実行委員会

《連絡先》埼玉母親大会連絡会 さいたま市浦和区仲町2-14-11 ゆないてい浦和 TEL/FAX 048-822-1817

母親が変われば社会が変わる！

母親運動のあゆみは日本の女性運動のあゆみです

母親大会のはじまり 核戦争から子どもを守りましょう

1954年、アメリカの水爆実験によって、マグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島・長崎につぐ3度目の被爆に母親たちは怒り、平塚らいてうさんら5人は全世界に向け「原水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。それに先立ち、6月、第1回日本母親大会が東京で開かれ、日本各地の炭坑や農村からも1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会に、河崎なつさんを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。幅広い母親運動の出発点です。

母親大会のあゆみ くらし・平和を守ってたくさんの母親・女性たちが行動

帰国後の報告会は、全国各地で数千回開かれ、各地に母親運動が広がりました。そして、母親・女性たちの願いをかかげ、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入・学校給食の脱脂粉乳を生乳に・ポストの数ほど保育所を・高校全入や私学助成など教育問題・物価値上げ反対・地球環境・公害問題など、母と子どもをとりまく様々な問題にとりくみ、貴重な成果を上げながら60年余をあゆみつづけてきました。

世界母親大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節「生命（いのち）を生みだす母親は生命を育て生命を守ることをのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のローガンになっています。

埼玉母親大会のあゆみ

母親・女性が手をつなぎ、「核戦争から子どもを守りましょう」と1956年に第1回を開催してから、毎年「埼玉母親大会」を開き、子育て・教育・くらし・平和など様々な母親・女性の願いを県に届け、保育所・高校増設など貴重な成果をあげながら、61年戦争放棄の平和憲法にかさね、母親運動をあゆみつづけてきました。